「防火・防災研修会」を「初期消火大会」とすることについて

１　目　　的

先般悪天候の為中止となった初期消火大会について、予備日を設けていなかったことと、初期消火の重要性と消火訓練の必要性を鑑み、防火・防災研修会の予定日に実施するもの。

なお、日照時間を考慮して、消火器の部を省略し屋内消火栓の部と消防車の部を実施する。

２　主　　催　　市原市防火安全協会

３　開 催 日 時　　令和５年１月２６日（木）１３時３０分開始
受付：１３時００分～１３時２０分

４　会　　場　　市原市総合防災センター（市原市山田橋３４３番地）
※入口は市道２号線(特別支援学校側)からとなります。

5　参 加資格等　　会員事業所に勤務する従業員等とする。

６　審　査　等　　消防局職員とする。

７　競 技 要 領　　操作技術の習得状況、安全管理及び隊員の士気等について予め定めた大会競技要領に基づき審査する。
・減点の場合はタイムを加算する。
・順位はタイムの早い順とし、同タイムの場合は、高年齢を上位とする。

８　表　　彰　　（１）**屋内消火栓の部**

最優秀賞、優秀賞、優良賞
※女性チーム　特別賞（参加希望があった場合）

（２）**消防車の部**

最優秀賞、優秀賞、優良賞

※悪天候、大規模災害の発生及び市内の新型コロナウイルス感染状況により、大会を中止する場合があります。なお、悪天候による中止は当日１０時まで、大規模災害が発生した場合の中止は速やかに、コロナ感染状況による中止は前日までに事務局から各事業所の連絡担当者にいたします。

なお、不明な点がありましたら、事務局（22-8119）までお問い合わせください。

初期消火大会次第

令和5年1月26日（木）13時30分～

市原市総合防災センター

1　開　会　式

（1）開会のことば（常任理事：火災予防課長）

（2）実行委員長あいさつ（副会長：危険物安全部）

（3）競技注意事項説明（事務局）

2　競　技　会

（1）屋内消火栓の部

（2）消　防　車　の　部

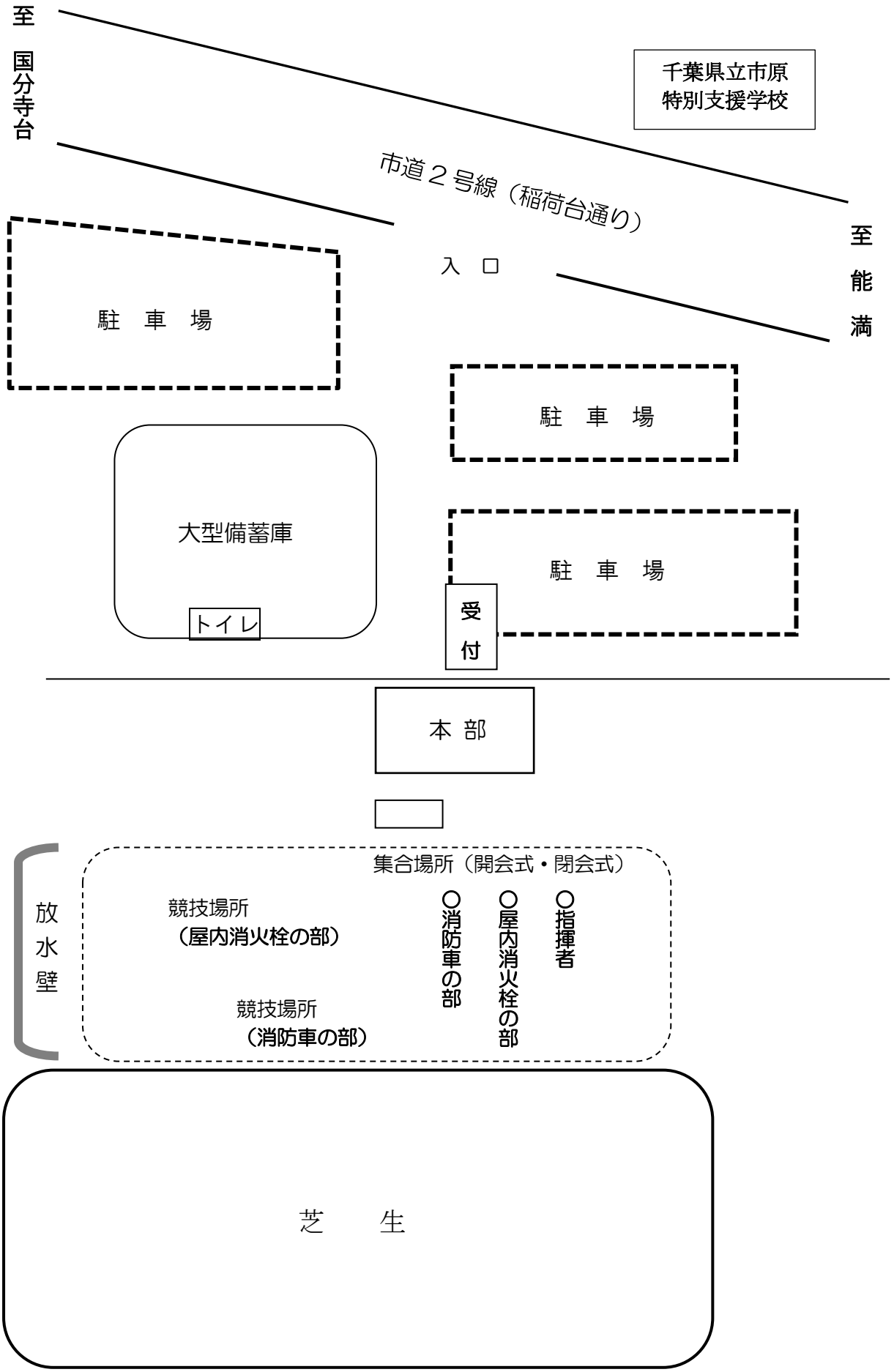
3　閉　会　式

（1）表　　彰（副会長：危険物安全部）

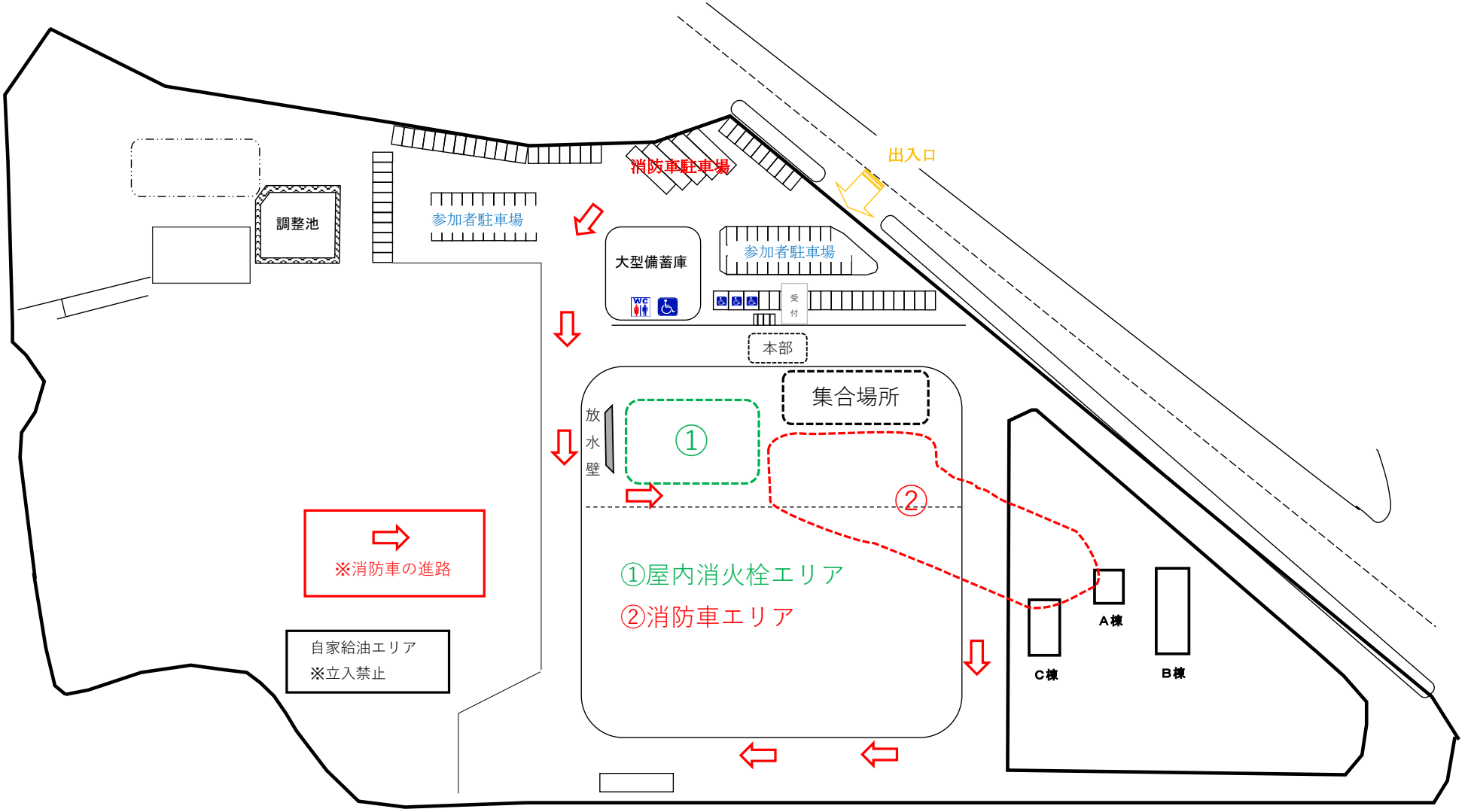
（2）講　　評（　　〃　　）

（3）閉会のことば（常任理事：火災予防課長）

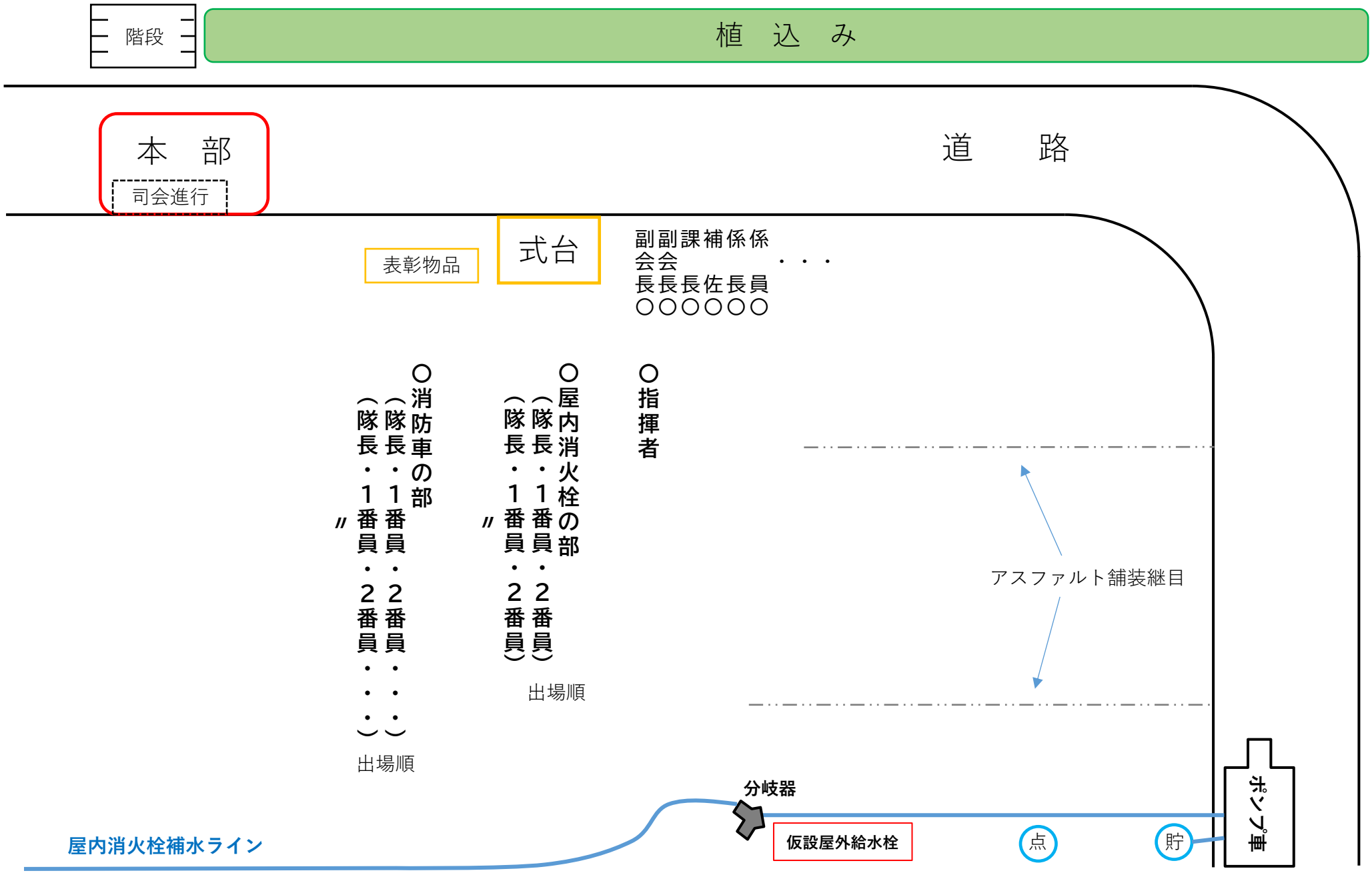
初期消火大会 会場配置図



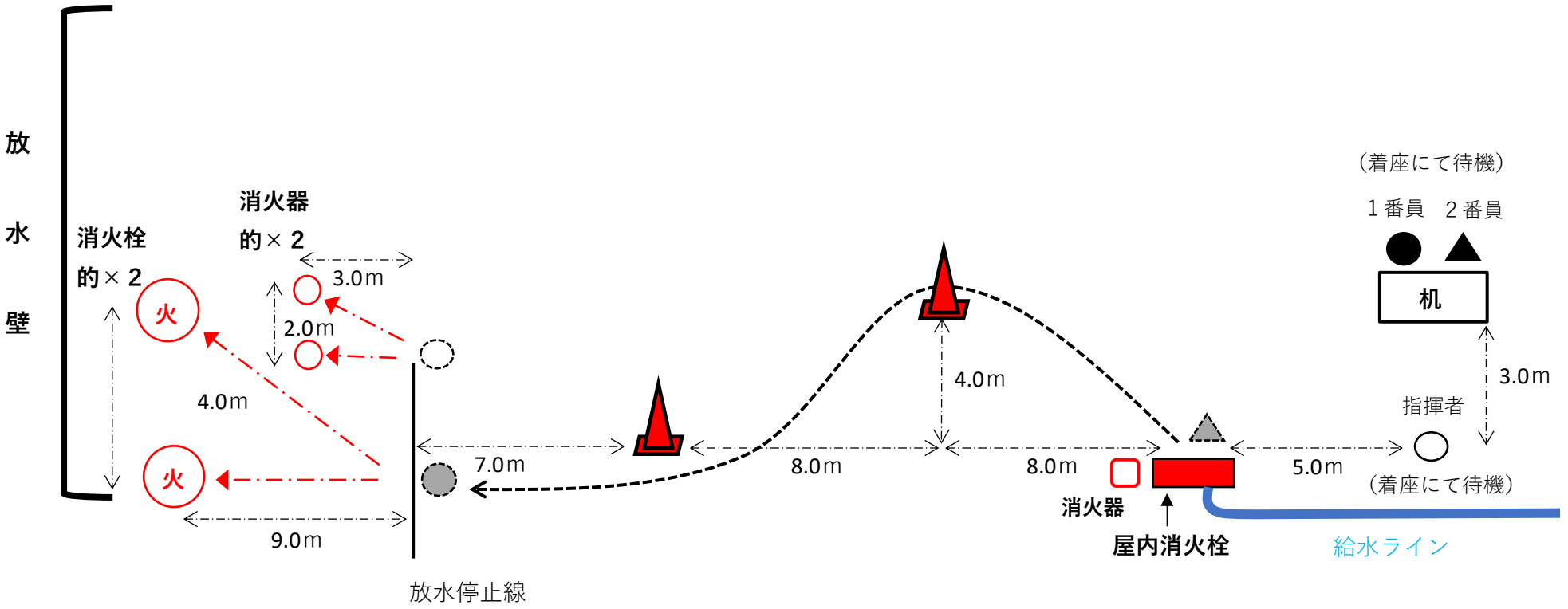
市原市防災センター配置図



開会式・表彰式


階段
植　込　み
本　部
司会進行
道　　路
表彰物品
式台
副副課補係係
会会
長長長佐長員
〇〇〇〇〇〇
・・・
〇指揮者
〇屋内消火栓の部
（隊長・１番員・２番員）
〃（隊長・１番員・２番員）
出場順
〇消防車の部
（隊長・１番員・２番員・・・・）
〃（隊長・１番員・２番員・・・・）
出場順
アスファルト舗装継目
分岐器
仮設屋外給水栓
点
貯
ポンプ車
屋内消火栓補水ライン

令和４年度　屋内消火栓の部　競技要領(図)



芝　　生

令和4年度　屋内消火栓の部　競技要領

出場選手紹介

アナウンスによる出場選手紹介を行う。

開始前の隊形

【指揮者】

番員前方中央（操作位置）のイスに座り「操作開始」（審査長からの指示）の指示を待つ。

【１番員・２番員】

指揮者前方（操作位置）のイスに座り「操作開始」（審査長から指示）の指示を待つ。

操作開始

【指揮者】

「操作開始」の審査長からの指示後、その場で立ち上がり、火点（的）を指差し**「火災発見」**と呼称、屋内消火栓に至り、非常ベルを押し鳴動させた後、消火器の前に至り、番員２名に**「屋内消火栓　操作始め」**と号令する。（１・２番員は**「よし」**と号令する。）

水消火器を携行して、ぼや２箇所（①的×２）の消火作業を実施する。初期消火活動実施後、指揮位置にて、各番員の操作状況及び火点の状況を監視する。

【１番員・２番員】

１・２番員は指揮者が非常ベルを押すと同時に席を立ちあがり、屋内消火栓の前に移動し、整列して待機する。指揮者の「屋内消火栓　操作始め」の号令に１・２番員の**「よし」**の呼称後、屋内消火栓を操作する。

ホース延長

【１番員】

屋内消火栓から筒先とホースを取り出し、２個の障害物をかわしながら火点方向にホースを延長する。

【２番員】

屋内消火栓のポンプ起動操作を行い**「起動よし」**と呼称した後、余裕ホースを確保する。

※扉の開閉は１番員・２番員どちらでもよい。

放水開始

【指揮者】

指揮位置にて、各番員の操作状況及び火点の状況を監視し、１番員の「放水始め」呼称後、火点方向に向きを変える。

【１番員】

放水停止線に停止し、余裕ホースを取った後、筒先を構え**「放水始め」**と呼称した後、標的を倒す。

【２番員】

１番員の「放水始め」の呼称まで屋内消火栓前で待機、１番員の「放水始め」呼称後、開閉弁を開ける。

開放した後、障害物をかわしホースを点検しながら、１番員後方の注水補助位置に至り、注水補助を行う。

放水停止

【指揮者】

標的を倒した後、各番員の方に向きを変え**「放水止め」**と号令する。

【１番員】

指揮者の「放水止め」の号令後、**「放水止め」**と復称し、２番員の「停水よし」後、筒先を置き、基本の姿勢で待つ。

【２番員】

１番員の「放水止め」の復称後、ホースを置き障害物をかわしながら屋内消火栓まで至り、開閉弁を閉める。閉めた後**「停水よし」**と呼称し、基本の姿勢で待つ。

集合

【指揮者】

１・２番員の操作完了（基本の姿勢）を確認後、**「集合位置に集まれ」**と号令し、最短距離で指揮位置へ戻る。

【１番員・２番員】

指揮者の「集合位置に集まれ」の号令後、最短距離で集合位置に戻り、基本の姿勢で待機する。

訓練終了報告

【指揮者】

指揮位置で集合線の番員を整列させ、**「右へならえ」**の号令をかけ**「なおれ」**の号令後、回れ右をし、答礼者の手前に進み敬礼をした後、**「〇〇事業所屋内消火栓操法を終了しました。」**と報告する。

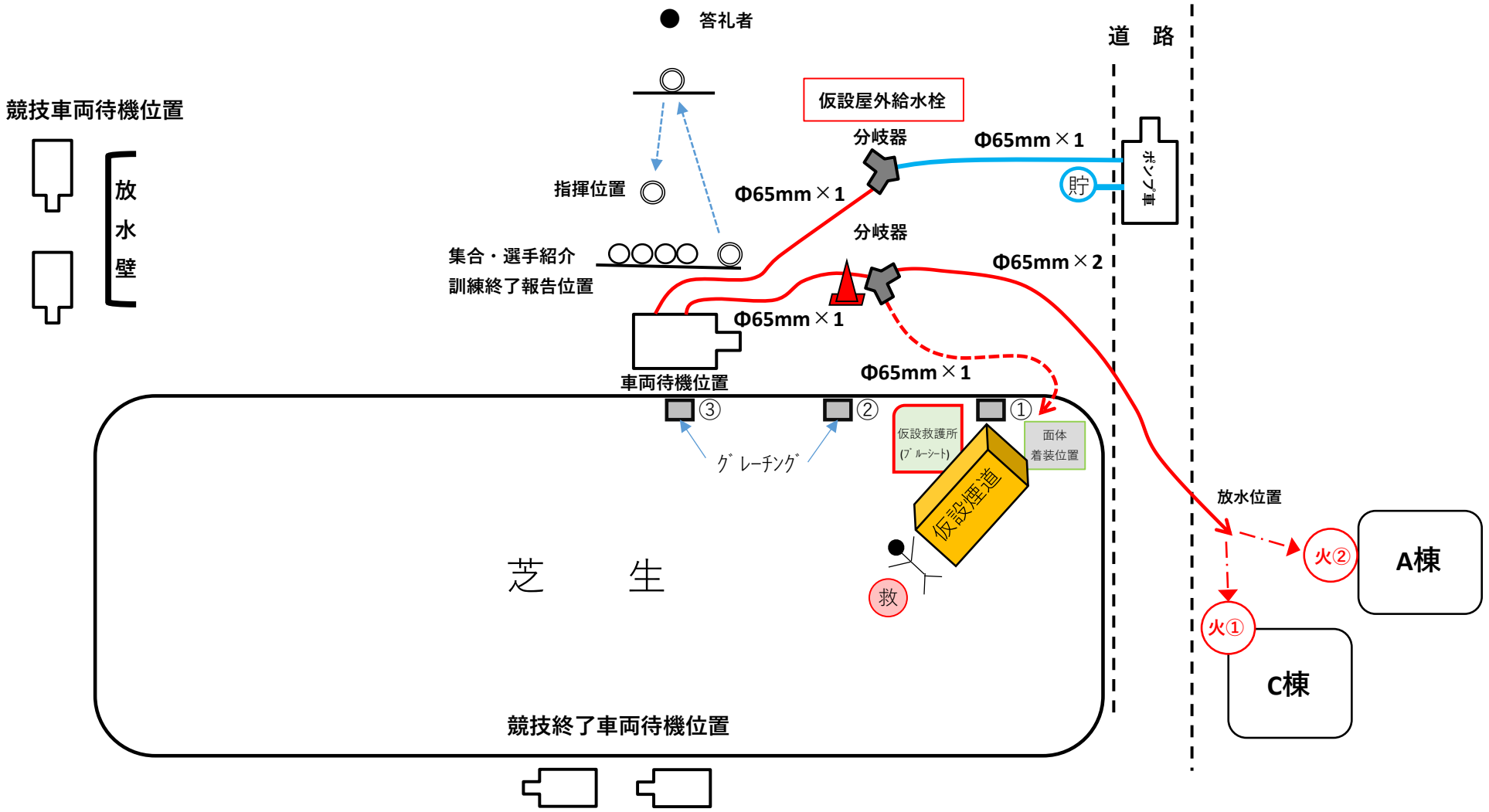
報告後、回れ右をして最初の指揮位置にもどり、**「わかれ」**の号令で訓練が終了となる。

【１番員・２番員】

指揮者の「わかれ」の号令で指揮者に対し敬礼を行う。

※タイムは、指揮者の**「屋内消火栓　操作始め」**に対する２番員の**「よし」**の「し」から２基の標的が倒れた時点とする。

令和４年度　消防車の部　競技要領（図）



令和4年度　消防自動車の部　競技要領

【出場選手紹介】

※空気呼吸器は予め着装し、面体を首に掛けた状態で待機位置に移動する。

待機位置で消防車を停車させ、エンジンを停止した後、全隊員が下車し、隊長は指揮位置へ、隊員４名は車両側方集合位置に各番員から順に並び隊長の指示で整列する。整列終了後、隊長は右翼位置に至り基本の姿勢で待ち、隊長から順にアナウンスにより選手紹介される。

【訓練開始報告】

選手紹介終了後、隊長は答礼者の手前約５ｍの位置に進んで、敬礼をした後、**「ただいまから〇〇事業所消防自動車操法を開始します」**と報告する。**（再度敬礼）**

報告後、回れ右をして指揮位置に戻り、隊員に**「活動を指示する。人命救助最優先、施設の延焼防止にあたれ。」**と活動内容を指示後、各隊員は**「よし。」**と呼称する。隊長の**「乗車」**の号令後、車両に乗り込む。

【活動内容】

（１）車両に全員乗車した状態で待機し、審査長の指示（旗を揚げる）による「訓練開始」の合図を受け、隊長の**「エンジン始動」**の指示により、機関員は、エンジンを始動し前照灯及び赤色灯を点灯させる。（但し、この時サイレンは吹鳴しない。）

（２）隊長は、点灯後**「操作始め」**と号令し、機関員の「よし」の合図により一斉に所定の活動を開始する。（整列前に資機材の点検、準備を行っておく。）

（３）隊員３名は、機関員の「よし」の合図により降車し、仮設煙道前の援護注水停止線まで６５㎜二重巻きホース２本を手びろめにより延長する。

なお、３名は援護注水隊員（以下、「注水隊員」という。）１名・要救助者救出隊員（以下、「救出隊員」という。）２名とする。また、２本のホースの間には、**分岐器**を入れ、援護注水用ラインと消火放水用ラインに分けることとする。

（４）機関員は、**「よし」**と呼称後、６５㎜ホース１本を延長し、仮設屋外給水栓（消防車の放口）に水利部署し放水準備を整え、隊長の「放水始め」の無線で、放水を開始する。

（５）注水隊員１名は、ホース延長後、仮設煙道前にて筒先配備体勢を確保、隊長に**「援護注水準備よし」**と合図する。

隊長の**「面体着装」**の指示で筒先を足元に置き、面体を着装し、着装完了後に手を挙げ隊長に合図する。

隊長の**「進入」**の指示で、筒先を構えて、救助隊員２名の後に続き、仮設煙道に屋内侵入し、援護注水をする。（**※実際に水は出さない。**）

（６）隊長は、機関員の「よし」の合図により各隊員の活動を指示しつつ仮設煙道入口付近で指示及び監視を行い、仮設煙道入口付近で救出隊員２名及び注水隊員１名に**「面体着装」**を指示し、救出隊員と注水隊員の面体着装完了の合図を確認後、**「進入」**の指示をする。

注水隊員が仮設煙道に屋内進入すると同時に、援護注水ホースラインを捌き、進入・脱出の補助を実施する。

（７）救出隊員２名は、ホース延長後、仮設煙道入口付近の面体着装位置で待機し、隊長の「面体着装」の指示により面体を着装し、着装完了後に**手を挙げ**隊長に合図する。

隊長の「進入」の指示により仮設煙道に屋内進入し、援護注水を受けながら、要救助者を前屈二人搬送にて仮設救護所に搬送し、面体を離脱した後**「救出完了」**と合図する。

（８）隊長は、救出隊員の「救出完了」の合図（審査員の赤旗）確認後、機関員へ**「一時放水止め」**を無線で指示し、放水停止の確認後、**「火点は前方の標的、ホース延長、放水準備」**と指示後、放水位置付近で消火活動に支障のない位置に移動し、隊員の活動を監視する。

（９）注水隊員１名は、隊長の**「一時放水止め」**と**「火点は前方の標的、ホース延長、放水準備」**の指示で筒先を足元に置き、面体を離脱した後、分岐器の援護注水用ラインを閉鎖し**「注水ライン閉鎖よし」**と呼唱する。

(10) 機関員は、隊長の「一時放水止め」の無線で、放水を一時停止する。

(11) 救出隊員２名及び注水隊員１名は、隊長の「火点は前方の標的、ホース延長、放水準備」の指示により、３名が協力し、先に延長した援護注水ラインとは別に分岐器から消火放水用ホースを２本延長し、放水体勢を整える。

なお、３名は筒先員・補助員・分岐器操作員とする。

(12) 筒先員は、放水体勢完了後、**「放水準備よし」**と隊長に合図する。

(13) 隊長は、隊員の「放水準備よし」の合図で、**「放水始め」**を無線で機関員と分岐器操作員へ指示する。

(14) 分岐器操作員は、隊長の**「放水始め」**の指示で、分岐器の援護注水用ラインの閉鎖を確認後、消火放水用ラインを開放し、**「放水ライン開放よし」**と無線で、隊長と機関員へ報告する。

(15) 筒先員及び補助員が標的を注水により反転させた時点（審査員の赤旗）を鎮火とし、この鎮火を確認した隊長は、**「放水を停止」**を無線で機関員へ指示する。

(16) 隊長は、鎮火および放水停止を確認後、**「資器材撤収」**を隊員に指示する。

（ホースの結合部を離脱しないで、仮設煙道を避け、芝生側に移動する。）

【訓練終了報告】

隊長及び隊員は、最小限の使用資機材を撤収後、最初に整列した車両側方集合位置で待機し、隊長の号令により整列する。

整列完了後、隊長は答礼者の手前約５ｍの位置に進んで敬礼をした後、

「〇〇事業所消防自動車操法を終了しました」と報告する。**（再度敬礼）**

報告終了後向きを変え、集合位置にもどり**「わかれ」**と指示し終了。

※なお、撤収作業は、隊員以外の関係者も協力し、速やかに実施すること。

【 審査要領等 】

（１）審査の基準

① 競技要領に基づく審査により減点方式とし、減点は審査表に従い所要時間に加算するものとする。※「安全・確実・迅速」のうち、「**安全**と**確実**」を重視します。

② 測定方法

ア 隊長の「**操作始め**」による機関員の「**よし**」の「**し**」から、要救助者を救護所に搬送後の放水（消火）活動により最後の標的が反転した時点までの所要時間とする。

イ 同タイムの場合は、平均年齢の高い隊を上位とする。

（２）注意事項

① 屋内進入及び救出活動は、隊員２名にて実施すること

② 放水始めの合図前の予備注水は禁止とする。

③ 搬送の際は、駆け足搬送を禁止し、要救助者にダメージを与えるような扱い及び搬送をしないこと。

④ 放水活動は、筒先員及び補助員の２名以上とする。

⑤ 会場内の車両の進行及び移動等は、全て低速走行（時速２０㎞程度）とすること。